



## 11 竹林・古刹から世界一の 踏切を通して旧京橋駅へ (馬道駅～西桑名駅探索マップ)

製作：北勢線の魅力を探る会 2015年10月  
連絡先：代表近藤 TEL 080-3073-3313

### ①上野御膳水

上野の丘陵からわき出る水を導いたもので、江戸時代には城下の地下水が悪かったため、藩主の飲料水はここから毎日運んでいた。上野村の旧家加藤家に伝わる話では、当時、御膳水には小屋が設けられており、その鍵は加藤家の当主が預かっていたという。

### ②冷水庵

曹洞宗の寺院で海蔵寺の末寺。明暦2年(1656)2月に加藤茂右衛門が土地を寄進し、庵を建てたことに始まる。現在の本堂は文化13年(1816)に建てられたものである。本尊の虚空蔵菩薩像は空海の作と伝わり、もとは美濃国高賀山(現岐阜県郡上市)にあったものを今一色の田村家の祖である白泉庵満空が享保12年(1727)に安置したもの。境内墓地には亀趺と呼ばれる亀に乗った墓がある。桑名藩校進修館の副教を勤めた佐父理希亮(さぶりまれすけ)の墓で、隣には妻柔の墓もある。

### ③太夫の大楠

幹周り約10.8m、樹高が約27mあり、地上60cmのところから2本の幹に分かれていて、市の天然記念物に指定。この木は天正年間(1573～92)に敵に追われ、楠の大木に隠れて一命をとりとめた三河の武士の母親が、のちにその大木が枯れてしまったのを聞いてお礼に植えたものと伝えられ、樹齢400年を超える古木である。

### ④増田神社

社殿は、雨天でも神楽が奉納できるように大きな覆屋で覆われているのが特徴。もとこの丘陵の下にあった立坂神社の末社で、太夫村氏神の八幡社境内の別宮でした。明治末の神社合祀令により隣村の神社の八幡社とともに移されることになり、当時12家の神楽職たちは困惑し、代表者の山本源太夫家敷地内の山祇社に併設したものです。当社に伝わる伊勢太神楽(国指定重要民俗文化財)は、伊勢大神楽講社を神社に置き、所属6家が毎年12月24日に奉納し、元旦より各地を巡歴して清め祓いを行い、神楽を奏している。

### ⑤西桑名神社

戦国時代にこの地西の山上にあった西方城主加藤勘助が八幡宮として祀っていたとされる神社で、天正年中(1573～92)、織田信長の兵火で焼失した海善寺が再興後、寺の修験僧が再び八幡社に奉仕したとも伝えられています。明治41年(1908)、太夫の八幡社を合祀して南大山田神社と称し、のち昭和9年(1934)に西桑名神社と改称。

### ⑥聖衆寺

真言宗。建仁4年(1204)の創建で、当時は43の僧坊を持つ巨刹であったといわれていますが、織田信長の北勢侵攻で全て焼かれ、江戸時代中期に岡本信行という僧が再興したのが今のお寺。信行は瓦師の出身で、瓦焼きの阿弥陀如来坐像を作りました。そのため寺は「土仏さん」といわれ親しまれている。現在、その仏像は阿弥陀堂の中に安置されている。

### ⑦三崎踏切

この名称は北勢線の魅力を探る会が便宜的に用いているもので、正式には鉄道会社ごとの名称があり、近鉄では益生第4号踏切、IR東海では桑名駅構内踏切、三岐鉄道では西桑名第2号踏切と名付けられています。線路幅は、近鉄が1,435mmの標準軌、JR東海が1,067mmの狭軌、北勢線が762mmの特殊狭軌(ナローゲージ)とそれぞれ異なっており、3種類の線路幅が並ぶ日本唯一の踏切となっています。

### ⑧桑名京橋駅跡

北勢鉄道西桑名町として大正4年に開業。昭和23年に桑名京橋駅と改称。昭和36年に廃止。現在は面影が全く残っていない。

### ⑨本統寺

桑名の人から「ごぼさん」と呼ばれる桑名別院本統寺は、一向一揆の際の浄土真宗の拠点として始まり、その後、寺号が許されました。住職は京都の本山(東本願寺)から来られたので、格式は高く、塀には5本線が入っている。

境内には松尾芭蕉の冬牡丹句碑(市指定文化財)がある。

